



歯の健康と疾患予防に取り組み 研究では歯の生成プロセスを探る

大学院医歯薬学研究部 小児歯科学分野(歯学域) 教授
岩本 勉 (いわもとつとむ)



◎ナビゲーター
大学院口腔科学教育部 博士課程 4年
杉本 明日菜 (すぎもとあすな)

診療と研究を両立 しながら

岩本先生の研究室では、歯や顎顔面(がくがんめん、あごのこと)の発生や再生の仕組みなどを研究しています。

杉本さんは歯髄や骨髄に含まれるそれぞれの幹細胞(様々な種類の細胞に変化できる細胞)を用いて、歯ができる分子メカニズムについて解析しています。

「歯の歯髄中の幹細胞が、歯やその他の組織に変化する(多能性を有している)ことはすでにわかっていますが、どのような作用によって変化するかというプロセスには、まだまだ未知の部分が多いのです」

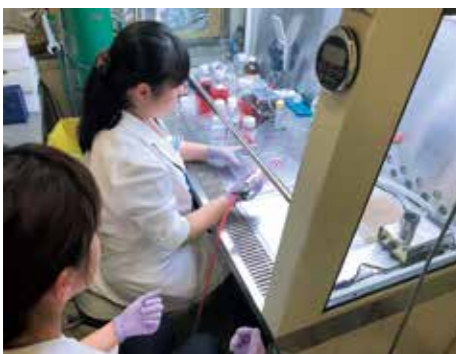
また様々な刺激が、幹細胞の分化に影響を与えています。杉本さんは、そうした刺激の中でも細胞外圧に注目し、細胞の外から圧力を負荷することによる幹細胞の変化、とくに歯・骨への変化について研究しています。実験には、歯や骨が観察しやすいことからメダカを使うこともあります。人の身体は体内外からの様々な

影響を受けています。細胞1つをとっても、その変化の過程には無限とも言える組み合わせやシナジーが存在することを知り、そのことを考えると生命とは非常に神秘的であると改めて感じるとのことでした。

「診療と研究は内容が違いどちらの魅力です。日々の診療が研究のヒントになることもあります。またその逆もあります」と、充実感を語ってくれました。

歯を健康にする、 臨床と研究

研究室には学生(院生)は4名。院生も教室の先生方も皆で楽しく



意欲的に研究、診療に取り組んでいます。日々の臨床の現場での問題を皆で共有し、口腔内の健康をより良くしていく研究へとつながっています。

小児歯科医として、臨床の現場で子どものむし歯や歯並び、口の機能の発達について、子どもの成長・発達に応じて治療・予防を行うことも大きな仕事です。歯科治療は大人でも緊張と不安を感じるものです。子どもの治療においては、特にそういった気持ちに配慮し、その子に応じた対応を取っています。

「泣いていた子が笑顔で来院してくれるようになったり、診療を行っていくうちに歯への関心が芽生え、歯が生えたことなどを報告してくれたりすると、とても元気をもらえますし、やりがいを感じます」

子どもの頃から歯の 健康を考える

研究室は温かな雰囲気です。「大げさなことはしませんが、新人の歓迎会や忘年会、行事の後の打ち上げ会など楽しみも多くあります」

「岩本勉先生は、いつも気さくにお話ししてくださいます。研究に

おいても、臨床においても尊敬しています。医局はとて面白い雰囲気です。」

近年、歯は糖尿病をはじめ様々な疾病にも影響を与えているということも知られはじめ、一生自分の歯をよい状態で維持することの大切さが啓発されています。

したがって子どもの頃からの歯の健康・疾患予防というのはさらに大事なことです。

小児歯科では、地域の検診事業や、講演など保健活動の分野でも活動しています。

杉本さんたちの今後の研究に注目です。

